

酒場の おん た よ

神保町 兵六 ~その2~

案内人 如月まみ 写真 yOU



酒場を訪ね歩く「酒場のおんな」。神保町の「兵六（ひょうろく）」に来ています。

東京を代表する老舗居酒屋は1948年（昭和23）創業しました。初代店主は薩摩出身。タバコをふかし、黙ってカウntaxーの真ん中に座っている方だったそう。壁にはそんな店主の、珍しい微笑んだ写真がかけてあります。「カメラマンが3日間通ってやっと撮ったんですよ」と、常連さんが教えてくれました。

今は若き3代目、柴山真人さんが継いでいます。この機会に、前から聞いてみたいと思っていた「後を継ぐのは嫌じゃなかったか」「常連さんの風当たりは強くなかったか」と、思い切って尋ねてみました。そのお話がとても楽しかった。気になる方は行って直接聞いてみて下さい。

兵六は常連さんによって支えられ、守られているお店。酔って場を乱したり、みっともないことをしたりする人がいようものなら、すぐ注意されるでしょう。でも、ひとり客には隣の人がさりげなく、自分のさかなもつまんでいいよ、と話しかけてくれたり、優しいんです。譲り合う昔ながらの人同士の関係がありますね。

真人さんを中心にして、カウンターがしばし一体となったり、また各々の時間に戻ったり、みんながつかず離れずの距離感が心地いいですね。兵六には電話がないのですが、それがまたこの距離感を保っている理由のひとつかもしれません。

壁に張ってあるメニューは、創業当時のものを変えずに紙を裏打ちして残しているそうです。今回の着物を選ぶ時、目を閉じて、この壁のメニューが背景にくることをイメージしてコーディネートしました。変に浮かず、場にすうーっとなじむように。それが兵六で学んだ酒場での流儀の全てのような気がします。

兵六（ひょうろく）

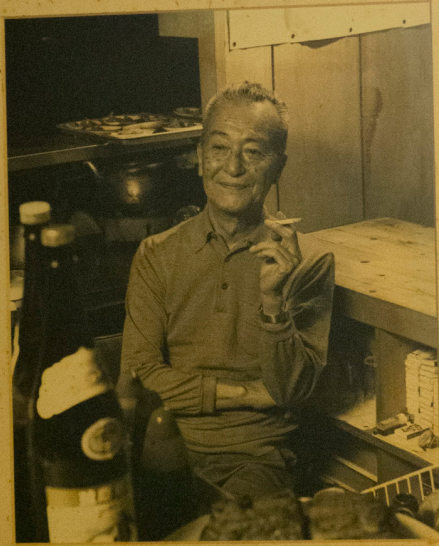
住所…東京都千代田区神田神保町1・3

電話…なし



酒場の
おんぼ

日本酒は二級酒のみ
というこだわり



酒神血証
他座献酬
大声歌唱
座外問答
乱酔暴論



兵六あげ
II

450

薩摩出身の初代

酒場の
おんな



酒場の
おんじ

つけ揚げもおすすめ



酒場の
おんな

カウンターがしばし一体に



酒場の
おひな

焼酎が進みます



酒場の
おんな

つかず離れずの距離感がいい



いぢめん に 花の粉は 漢をと 高村光太郎 長
 とし かりとふる
 わか 為事、のち かなを けて 成るさば 結露子
 は 知りき 知りて、たみき
 高村光太郎
 し 此所 に 住み にか

酒場の
おんぼ

高村光太郎の色紙も



酒場の
おひら

締めは名物の焼きそば



酒場の
おひな

夜風が気持ちいい



酒場の
おんな

ごちそうさまでした